

令和7年度 学力向上グランドデザイン 下郷町立榎原小学校

児童・保護者の願い

- 分かる・できる・楽しい授業
- 基礎的・基本的な学習内容をきちんと身に付けてくれる学校
- 子供一人一人に応じた学力向上に取り組む学校

教育目標

- 心身ともにたくましく
人間性豊かな 子供の育成
- 共に支え合う、心豊かな子供
 - 共に学び合い、自ら学ぶ子供
 - 共に鍛え合う、たくましい子供

令和6年度の児童の実態

【全国学力学習状況調査 全国平均正答率との比較】

国語 +3.3 算数 +6.5

【NRT 学力検査(R7年2月)】 ※U・A: アンダーアチーバー

学 年	1	2	3	4	5	6	計
学力偏差値	54.3	47.3	52.9	52.0	50.0	48.4	50.8
U・A(%)	0	25	11	20	6	50	16

【学校教育評価(児童)の結果】

(学年×10+10)分以上の家庭学習をしている・だいたいしている 93%

現職教育研究主題

「親切や思いやりの心をもち、互いを尊重しながらよりよく生きる児童を求めて」

目指す子供の姿

共に学び合い、自ら学ぶ子供

【重点目標1】確かな学力の育成

【重点目標2】表現力の向上

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業等の改善
- 読書活動の推進
- 特別支援教育の充実

A

【学力向上のための改善】

- 授業の充実・改善
- 学習環境づくり

P

D

令和7年度の数値目標

【全国学力学習状況調査 全国平均正答率との比較】

国語 +5 算数 +8

【NRT 学力検査】 約 +0.5

(新) 学年	1	2	3	4	5	6	計
学力偏差値	51	55	48	53	53	51	52
U・A(%)	0	0	0	0	0	0	0

【学校教育評価(児童)の結果】 +2 ポイント

(学年×10+10)分以上の家庭学習をしている・だいたいしている 95%

授業の充実・改善

【授業づくり】

～南会津版「授業スタンダード」をよりどころとして、生徒指導の機能を生かした授業～

- 実態把握と指導の重点化…身に付けるべき資質・能力を明確にし、目指す子供の姿を明らかにする。
- 「学習のやくそく」を用いた学習の基盤を作る指導
- 子供自身に「問いを見出していく力」を身に付けさせるための課題設定の工夫
- 教師が話しすぎず、子供同士の「聞き合う力」を高める工夫
- 「バレーボール型」で話し合う力を高める工夫
- 子供自身が、学んだことや身に付けたことを自覚できるまとめや振り返りの工夫

【教材開発・活用】

- ワークシート、プリントなどの工夫・テストの活用
- 活用力育成シートの活用

【授業形態の工夫】

- ペアやグループで話し合うことができる形態
- ICTの効果的活用

学習環境づくり

【家庭学習の充実】

- 学年×10+10分以上の学習時間の確保
- 「家庭学習スタンダード」の活用・家庭への啓発
- 学年に合った自主学習の奨励

【他の教育活動との関連を図る】

- 思考力、判断力、表現力の育成
- 体験的な活動の充実（生活・総合など）
- 達成感のある学校行事
- 地域人材の活用

【読書活動・表現する場の設定】

- 朝の読書・読み聞かせ・ブックトーク
- 親子読書の推進
- 朝の会、帰りの会での1分間スピーチ等の実施
- 児童会主催の榎小タイムの充実 等
- 児童会の自主的活動
- 行事等での感想発表の場の設定
- 友達のよさを発表し合う場の設定（学級・全体など）

安心できる学級 互いを認め合う学級

【評価の視点】

- NRT 学力検査結果の分析
- 学力向上学級プラン作成・実施
- 全国学力学習状況調査の分析
- ふくしま学力調査の分析
- 知能検査
- QUによる調査と活用
- 活用力育成シート
- 単元テスト（随時）
- 学校評価アンケート

C